

新ましこ未来計画外部検証委員会（資産形成）議事録

日時	平成 28 年 11 月 16 日(水) 18:00～19:50	
場所	役場 職員休憩室	
出席者	委員	大岡委員、添谷委員、濱田委員、日渡委員
	職員	岡教育長、高野産業建設部長、大関建設課長、高浜観光商工課長、加藤生涯学習課長
	事務局	日下田企画課長、吉永係長、岩崎
配布資料	新未来計画説明資料、新ましこ未来計画推進シート、成果指標・重要業績評価指標（H27 年度。黒い網掛けは町民アンケートに基づく数字）、魅力度ランキング	

発言者	発言要旨
教育長 産業建設部長 委員 生涯学習課長 委員 教育長	1. 委員・職員自己紹介 2. 本会議および外部検証スケジュール・配布資料確認 3. 資産形成概要説明 (実施状況について資料に基づき説明。) 4. 検証 OP 56 について 歴史や文化財の活用 ましこ検定はどのように実施していくのか。 実行委員会の開催前のため、現在は案の段階だが、益子の自然・文化財・産業から問題を出し、対象者は本町に関心のある方を年齢制限なしで募集する。50 問中 35 問正解で合格とする。公民館を会場とし、試験を実施する。問題の出所は益子町史、小中学生社会科副読本等を予定しており、資料の持ち込みはなしとなる予定である。 本日、益子西小学校 4 年生が濱田庄司を研究し、発表する授業があった。高校生や大学生レベルに匹敵するような内容で、民芸運動等の専門用語が飛び交う場面もあり、感心した。発表に至るまでの数か月間勉強をしていたようであり、発表に至るまでの過程が理解を深める要素となっていたようだ。ましこ検定も検定を一度実施するだけでは効果が薄く、勉強会等を事前に数回行うなど、益子好きの方との議論やコミュニケーションを取れる機会を提供することの方が重要であると考えている。 小学校社会科副読本が専門的な内容であることから、その活用の在り方が課題となっている。今回の授業は学力向上対策事業の一つとして開催された。

委員	ましこ検定の出題問題は同じものを数年使用するのか。問題を数問ずつ、広報に掲載し町民の理解度とましこ検定の認知度を深めるよう活用したらいかがか。
生涯学習課長	年度ごとに問題を変更する予定である。本日の意見をもとに、今後の実行委員会で検討したい。
委員	亀岡八幡宮里山の会は整備に非常に熱心でパトロールに行くたびに整備が進んでいるのを確認している。非常にありがたいことではあるが、文化財保護法の関係もあることから、打ち合わせを行う際には文化財担当職員も交えて実施していただきたい。
生涯学習課長	11月末に里山の会と打合せがあるので、ご意見の点も踏まえていきたい。
委員	OP 57について 風土や風景、風習の継承 アカマツ復活プロジェクトはどういったものか。町民を巻き込んで苗を植えるようなものか。
産業建設部長	震災後に登り窯の復活が進んだが、かつて登り窯の燃料としても利用されて町木として親しまれたアカマツを復活させることも長年の課題であった。民間企業の三成ホームから植樹の話があり、植樹と管理をしていただけることになった。今後、民有林の所有者にも理解いただき、植樹等が出来ればよいと考えている。
委員	H29年度七井小を選出しているが、どのように決定したのか。
教育長	校長会に諮ったところ、七井小から実施したいと申し出があった。今後は輪番になることが予想される。
委員	H26・27に益子小が2年連続で円道寺池の植林をしたこともあり、アカマツは他の学校に機会を提供できるようにとの考えもあった。
委員	アカマツは、景観としてのものなのか、燃料として使用してもよいものを想定しているのか。
産業建設部長	景観もあるが町として最終的には燃料も想定している。
委員	焼き物とアカマツはセットとして、益子焼の町としてのストーリーを作っていきたい部分もある。
委員	また、町民の役割に「参加する」とあるが、町民を巻き込んだ植樹等も想定しているのか。

産業建設部長	最終的には、町民を巻き込んで植樹が出来ればと考えている。
教育長	アカマツが再び松くい虫の被害に合わないようにすることも課題である。
建設課長	現在も松くい虫の被害があるが、対策の方法はある。
委員	○P. 58 について ましこのランドスケープデザインの作成 ランドスケープデザインには深澤直人氏は関わるのか。専門の方は関わるのか。
産業建設部長	深澤氏は、どちらかという計画の 60 ページのブランドイメージの確立に関連しており、今のところ、専門家は関わっていない。回遊性を高めるために建設課が関わっているが、町全体の企画という意味では企画課が進めていくべき施策である。文化財をどのように生かし、観光客をどう誘客するかなど町全体の計画である。
委員	道路の改良率が 70.8%とのことだが、舗装率はいかがか。アンケートによると町民の要望の多くは、歩道整備である。通学路など歩行者の安全を確保するために必要であると考えている。
産業建設部長	舗装率は 83.7%。要望には、町道だけでなく、県道や国道も多く含まれており県土木事務所に要望している。
建設課長	用地補償など交渉を容易に進めるため、県道・国道の交渉時には町職員も積極的に関わるようにしている。町道については、車のすれ違いが困難な道路の拡幅を優先的にしており、歩道の整備まで至っていないのが現状ではあるが、前向きに整備していきたい。また、小学校付近の歩道整備に関する県補助についても積極的に活用していく。
委員	○P. 59 について 特性をいかした地域創生 大郷戸ダム周辺整備について、整備された当初は育成会等でよく利用されていたが、近年では釣り人がメインの印象である。トイレが衛生的なイメージもなく、このままでは利用者が減少してしまうのではないかと考えている。
建設課長	周辺道路の整備など、農政課とともに進めていきたい。
産業建設部長	山郷のめぐみの裏手にあるトイレは水洗化していると思ったが。夜もすぐに電気も点灯する。以前広場にあったトイレは取り壊してある。
委員	西明寺から指さし観音、山本へ出て大郷戸ダムから富谷観音へ抜ける道路があり、益子の民話に出てくる。現在は整備不良で通りにくいが、ハイキングコースなどと

産業建設部長	して整備しても面白いかもしれない。また、サイクリングマップについて道の駅等で問い合わせている方も見かけるので、マップがあると観光客に喜ばれると思う。 道の駅発のサイクリングマップを大郷戸ダムなどの見どころを回遊できるように制作していきたいと考えている。季節ごとのおすすめコースなど。
委員	OP 60 について 町のブランドイメージの確立 茨城県笠間市と「かさましこ」を積極的に実施しているが、この中に含まれるイメージでよいのか。
観光商工課長	もともとは笠間市と両観光協会との事業であったが、そこに栃木・茨城両県が加わり、現在は地方創生関係の国の交付金を活用してパンフレット制作、海外からの留学生によるモニター調査等の事業をお互いに実施している。町で発行している雑誌ミチカケで笠間市を取り上げるなどもしている。栃木県の事業としては、笠間と益子の知名度調査も事業内容に含まれている。来年度は今年度と比較し、予算規模は減少する。P. 38、41 ともリンクしている。
委員	おもてなし補助金の上限はいくらか。
観光商工課長	ソフト事業 30 万円、ハード事業 50 万円で補助率 3 分の 2 である。H27 年度は 14 事業が対象であり、ソフト事業が多い。実績として、ポターリング益子やさんぽ市、そば祭り、益子夜市などがある。
事務局	5. 事務連絡 外部検証意見シートを作成し、11 月末までに提出していただきたい。15 シートについて一つの欄に記入するため 6 枚必要となる。 6. 閉会

成果指標・重要業績評価指標 (KPI)

基本目標 地域資産を蓄積する

成果指標・KPI	基準値（現状値）		実績値					
	値	時点 （年度）	H27	H28	H29	H30	H31	H32
			2015	2016	2017	2018	2019	2020
日本遺産登録	—	—	未申請					
ましこ検定の受検者数	—	—	未実施					
ましこ世間遺産認定数(累計)	—	—	未実施					
ランドスケープデザインの作成	—	—	未実施					
「地域への愛着や誇りを感じる人」の割合	74.1%	H26	73.5%					
地域ブランド調査魅力度市区町村ランキン グ	475位	H26	459位	377位				

基本目標 健全な経営体を持続する

成果指標・KPI	基準値（現状値）		実績値						
	値	時点 （年度）	H27	H28	H29	H30	H31	H32	
			2015	2016	2017	2018	2019	2020	
プライマリーバランス	5億400万円 黒字	H26	7億3,215万円 黒字						
ふるさと納税額	161万円	H26	3,837.1万円						
財産収入	831万円	H26	484.4万円						
町税徴収率	87.95%	H26	87.83%						
町債額	70億3,555万円	H26	69億9,958万円						
指定管理者が運営する施設数	3施設	H26	3施設						
「職員に対する住民満足度」の割合	－	－	68.1%						
町民団体や社会的企業などの設立数	－	－	未実施						
地域創生活動コンテンツへの参加団体数	－	－	未実施						

新未来計画 事前質問・回答一覧(平成28年度 上半期)

質問 番号	新未来 計画 ページ	担当課	事前質問	回答
1	56	環境課	①亀岡八幡宮里山の会代表者との打合わせは、どのようなメンバーで行われたのか。	①について 亀岡八幡宮氏子の方たちで構成された亀岡八幡宮里山の会が事前に事業の実施に向けて会員の意見等を取りまとめ、同会の代表者及び役員と町環境課職員で年度ごとに事業打合せを行っている。
2	57	総務課	①動画による記録・保存などの進捗状況50%ということだが、今後どのような撮影が予定されているのか。	①について 本年度は業者による手筒花火の撮影、広報係職員による御神酒頂戴式、御上覧、道の駅の撮影が終了し、現在、編集・保存作業を進めている。来年度以降も継続して地域の祭りや伝統芸能などの撮影を実施していく予定。昨年度までに、ひまわり祭り、コスモス祭り、土祭の撮影・編集が終了し、町ホームページ上で見られるようになっている。
3	57	学校教育課	①森林教室とはどのようなものなのか。赤松プロジェクトととらえてよいのか。また、対象学年、教育課程での位置づけなどの全体像はどのようなか。	①について 森林教室は、日光森林管理署等の職員が講師となり、小学4年生に対し、濾過実験等の学習をおし森林、樹木への関心を持ち将来にわたり森林を健全な状態で維持していくことの大切さを学習するもの。アカマツ復活プロジェクトは、町木であるアカマツを復活させる事業として、小学校高学年を対象に益子里山の会の会員等の指導により、アカマツの植栽、管理等の体験学習を行うもので、いずれも、「総合的な学習の時間」の環境教育の一環として実施。
4	59	観光商工課	①「三成の森」とは、どこにあるのか。	①について 栃木県立公園・益子の森内、花見の丘広場周辺
5	60	観光商工課	①トップセールスではなぜ台湾を選んだのか。 ②台湾トップセールスにおける一般来場者について、150人程度という数は予想に対してどうだったのか。	①について 外国人宿泊者数が栃木県内で一番多い国であり入込客数も多い。(誘客促進) 焼き物のつながりも店舗ごとにある。(販路拡大) ②について 平日日中のイベントとしては、メディア・商社・ショップ関係の来場があり良好だった。